

ちよかわいせき  
**千代川遺跡 第37次調査**

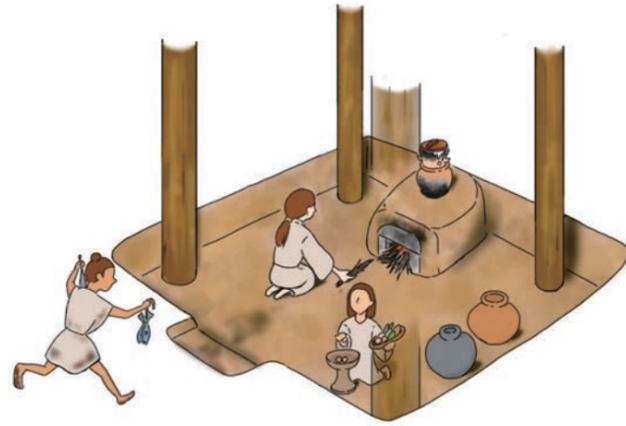


調査場所 亀岡市千代川町千原  
調査期間 令和6年5月7日～令和7年3月7日(予定)  
調査機関 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター



竪穴建物2 かまど(東から)

写真の手前側が焚き口で、かまど内部から土器片が多く出土しています。焚き口の近くで、古墳時代後期の須恵器杯身が出土しています。



竪穴建物内部復元図

地面から約1m掘り下げたところを床面として整地し、柱穴を掘り、柱を立てて屋根を造ります。かまどでは、甕や甑を使って料理を作ります。

**まとめ**

今回の調査で竪穴建物や土坑が見つかったことにより、千代川遺跡のこの場所では、弥生時代中期後葉から人々が住み始めたことがわかりました。また、古墳時代後期になると次々に竪穴建物が営まれ、周辺に集落が大きく展開すると考えられます。大堰川にほど近い場所で、竪穴建物群が見つかったことは、当該時期の水利や地域開発を考えるうえで重要な成果です。あわせて竪穴建物から掘立柱建物へと移り変わる様子もとらえることができました。



竪穴建物2 かまど近くで出土した須恵器杯身

また、北西約800mに拝田古墳群の存在も知られ、古墳と集落の関係を検討する手掛かりとなるでしょう。

検出した建物一覧表

No.	遺構名称	時期	規模(南北×東西/m)	出土遺物	備考
1	竪穴建物1	弥生時代後期	5.3以上×2.3以上	弥生土器	
2	竪穴建物2	古墳時代後期	6.3×6.3	須恵器	かまどあり
3	竪穴建物3	〃	5.5×5.0	〃	かまどあり
4	竪穴建物4	〃	2.9以上×1.5以上	〃	部分検出
5	竪穴建物5	〃	5.3×5.2	〃	かまどあり
6	竪穴建物6	〃	1.2以上×1.2以上	〃	部分検出
7	竪穴建物7	〃	4.4×3.4以上	〃	部分検出
8	竪穴建物8	〃	5.5×5.5	〃	かまどあり
9	竪穴建物9	〃	3.6×3.5	〃	
10	竪穴建物10	〃	4.0×4.0	〃	
11	竪穴建物11	〃	2.5以上×2.7以上	〃	部分検出
12	掘立柱建物1	飛鳥時代	8.4×5.5以上	〃	部分検出、廂つきの建物
13	掘立柱建物2	〃	5.2×4.0	土師器	
14	掘立柱建物3	〃	4.0×3.3以上	土師器	部分検出

西暦	時代	
	旧石器時代	
	縄文時代	
	弥生時代	
250	前期	千代川遺跡 第37次調査
400	中期	
500	後期	
	古墳時代	拝田16号墳
710	飛鳥時代	
794	奈良時代	
1185	平安時代	
1333	鎌倉時代	
	南北朝時代	
	室町時代	
	安土桃山時代	
1603	江戸時代	
	近代	



# はじめに

今回の発掘調査は、国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」の工事に先立って実施しています。

千代川遺跡は東西1.4km、南北1.9kmに及ぶ広大な遺跡であり、これまでの調査で縄文時代から中世にわたる多数の遺構・遺物が確認されています。

# 発掘調査の成果

今回の発掘調査では、弥生時代中期の土坑、弥生時代後期の<sup>たてあな</sup>竖穴建物・溝、古墳時代後期の<sup>ほったて</sup>竖穴建物群・溝、飛鳥時代の<sup>つぼかめ</sup>掘立柱建物が見つかりました。

土坑1・2からは弥生時代中期後葉の壺・甕などが多く出土しました。竖穴建物1は弥生時代後期の住居跡です。東側半分が調査区外のため、全体の形はわかりませんが、いびつな多角形をしています。竖穴建物の形としては、弥生時代は円形、古墳時代以降は方形が一般的ですので、竖穴建物1は形が変化する過渡期に営まれたと考えられます。



土坑1 弥生土器出土状況(北から)

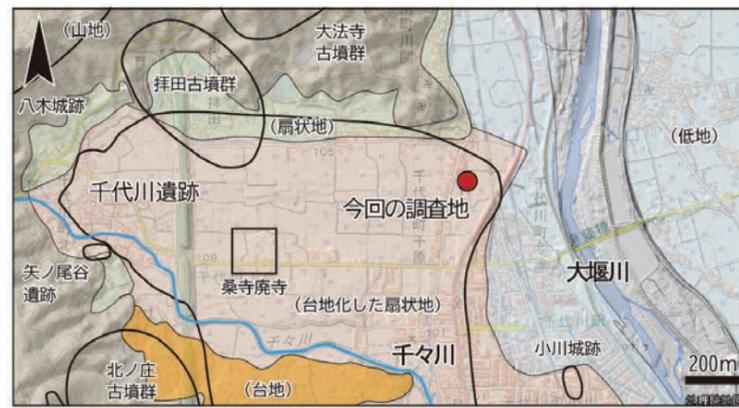
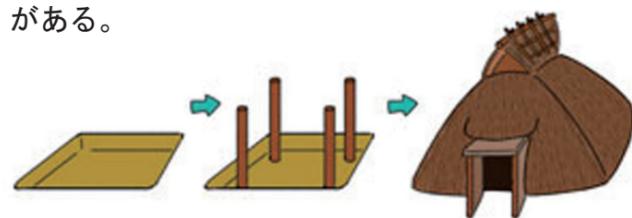


竖穴建物1(南東から)

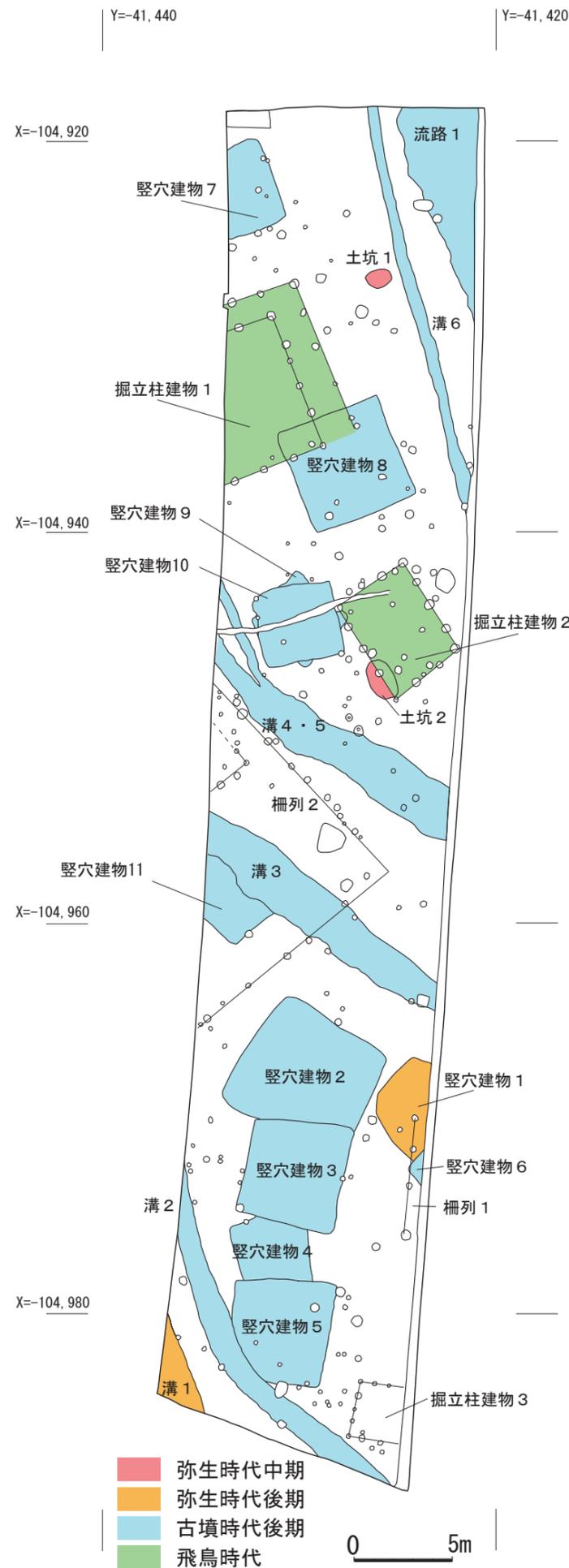


竖穴建物1 弥生土器出土状況(南西から)

<sup>たてあな</sup>竖穴建物とは  
地面を掘り下げて床面を造り、屋根を支えるための柱を立て、屋根を葺いた建物のこと。  
縄文時代から平安時代初期に至るまでの事例がある。



調査地位置図



竖穴建物2~5(南から)



溝1・2(南東から)

古墳時代後期になると、竖穴建物が次々と営まれます。この時期の竖穴建物は全部で10基あり、そのうち竖穴建物2~5は、4基が重なり合っています。竖穴建物2は、一辺6mを超える大型の住居跡ですが、他の3基や、竖穴建物8~10については、いずれも一辺4~5m程度の住居跡です。竖穴建物2・3・5・8には、造りつけのかまどが確認できます。溝2は古墳時代後期の溝で、竖穴建物5の一部を削って掘られています。

掘立柱建物1は、竖穴建物8の一部重なって建てられています。北側、東側には、建物に沿って柱列を検出しており、<sup>ひさし</sup>廂つきの建物であった可能性があります。掘立柱建物1・2を構成する柱穴から、ごく少量ですが飛鳥時代の遺物が出土しています。掘立柱建物3の時期は遺物がなく不明です。